

緑ヶ丘公園（秋葉神社周辺）を整備

緑ヶ丘公園の秋葉神社階段から西側側の整備を行いました。神社につながる階段を整備し、神社横の広場に屋根つきのベンチを新設。また、柳の木やヤマモモの木など約150本を植樹し、昆虫や野鳥の観察ゾーンを新たに設けました。



出の山ホテルの優雅な舞に歓声

ホテルが見頃を迎えた5月23日～6月7日、「出の山ホテル恋まつり」が出の山公園で開催されました。まつり期間中は、保護のため立ち入りが禁止されている水路沿いの遊歩道を開放。間近で舞うホテルの光に「すごい」「きれい」などと歓声が上がっていました。



上之園優加さんオーケストラと協演

4月26日、東方中3年の上之園優加さんが、大阪で開催された第27回フリーゲル・ピアノコンチェルト・フェスティバル「夢コン」に出場しました。テープ審査、九州本選の審査を通過し、本大会に出場資格を獲得。プロのオーケストラ30人をバックに演奏しました。



人権擁護委員に井野真由美さんが再任

須木地区の人権擁護委員に井野真由美さんが再任されました。任期は、平成30年6月30日まで。人権・なやみごと相談の相談員や啓発活動を行います。井野さんは「須木小の人権の花運動が印象強い。子どもたちからもらったパワーを生かしたい」と話していました。



肥後市長と本坊会長（写真右）。併せて市に寄贈した「ファミマの天然水-霧島-」は全国ファミリーマートで販売されています

水資源保全と観光振興に （株）C A Bが100万円寄付

6月17日、清涼飲料水の製造販売を行う株式会社クリーン・アクア・ビバレッジ（細野）が市へ100万円を寄付しました。贈呈式で本坊修代表取締役会長は「地元ほんぽうおさむに密着した企業として、小林の活力になれるよう頑張りたい」とあいさつ。寄付金は、水資源の保全と観光振興に活用されます。



小林チョウザメ料理推進協議会の熊ノ迫文夫会長（=小林商工会議所会頭）から、宮崎牛と太陽のタマゴが贈られました

「チョウザメにぎり膳」人気 1万食達成し記念セレモニー

市特産のチョウザメを使ったご当地グルメ「小林チョウザメにぎり膳」が6月15日、販売開始から1年4カ月で1万食を達成し、記念イベントが行われました。1万食目を注文したのは、視察で市を訪れていた中原忠義さん（福岡県久留米市）。中原さんは「一生の思い出になる。チョウザメ料理も初めてで楽しみ」と話していました。

宮崎銀行と地方創生で協定 「総合戦略」策定を共同で実施

市では、宮崎銀行と地方創生総合戦略の策定を共同で行う協定を結びました。6月から同行員が週に3日程度市役所で、経済統計などを分析し、市職員らとともに雇用創出や人口減少対策の施策を検討します。派遣されたのは、同行経営企画部の小林市真方出身、神田稔久さん（35）です。



企画政策課内で職務にあたる神田さん。「これまでの経験や銀行のノウハウ・情報を活用して故郷に貢献したい」と話していました

永久津小・中の児童・生徒ら 認知症高齢者と田植えで交流

6月10日、永久津小5・6年生と同中全校生徒が認知症の高齢者と田植えをしました。児童・生徒には認知症への理解を、認知症患者には農作業を通じて症状の緩和を図ることを目的に、小林市地域包括支援センターと同校が企画。10月末に収穫、12月には収穫祭を開き餅つきを行います。



田植えをする参加者ら。同中では、田植えを前に認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の症状などを学習してきました



大角正廣実行委員長は「天気に恵まれ多くの人に来てもらえてよかった。甘いメロン・マンゴーを味わって欲しい」と話していました

甘い果実を求めて長蛇の列 メロン・マンゴーフェア開催

5月30日、第4回メロン・マンゴーフェアがのじりこびあで開催されました。市場価格よりも割安で、県産ブランド「めろめろメロン」、「太陽のタマゴ」や完熟マンゴーなどを販売。会場には、約4千人が訪れ、メロン1万4千個とマンゴー2千個が売り切れる盛況となりました。



客全員で歌詞を手に合唱するのが特徴の歌声喫茶。参加費200円。問い合わせは前原さん（TEL 090-2398-5107）まで

歌謡曲や童謡など参加者合唱 週2回「歌声喫茶」オープン

昭和30～50年代、全国に広まった「歌声喫茶」が、中央商店街のスマイル館にオープンしました。「うたごえ・フラワーズ」（前原博代表）が企画し、毎月第1、第3土曜日に開店。初回となった6月6日は参加費無料で開催し、約80人が参加。ハーモニカの伴奏や映像にあわせて、昭和歌謡や童謡など約20曲を歌い上げました。